

新しい資本主義を実現させる インパクト投資



シブサワ・アンド・カンパニー株式会社代表取締役

渋澤 健

150年前の日本は鎖国体制が解かれたばかりの途上国でした。その時の日本にあった豊富な資源は、端的に水と森、そして、人だけ。言い換えれば、日本は人的資本の向上により、開国後数十年という短期間に当時の先進国の仲間入りを果たしました。

その人的資本向上は現在の日本でも注目すべき重要な課題です。昭和時代の人口ボーナスによる「量」の豊かさから、これからの令和時代では「質」の豊かさを日本は追求しなければなりません。

したがって、岸田政権が掲げる「新しい資本主義」の重点項目に「人的資本の向上」が掲載されていることは時代に応じており、また「成長と分配の好循環」は国境域内だけでなく、グローバル展開することがこれからの日本社会の豊かさへとつながります。

このような日本の新しい時代を見たいと考える同志により“株式会社 & Capital” (<https://andcapital.jp/>) という運用業界のスタートアップが2023年1月に設立されました。経済同友会が2021年10月に提言したアフリカ向け官民連携インパクトファンドである「アフリカ投資機構」(仮称)が、同アフリカPTの有志の出資により民間先導で実現した運びです。

& Capital の設立意義は、経済的リターン & 課題解決インパクトを意図とする新たな投資の流れをアフリカ & 日本と共創することです。

ファンド出資者は業界線を超えた多様な日本企業群であり、メイド・ウィズ・ジャパンの精神により、官民連携のグローバル・イニシアティブとしてアフリカにおけるグロース・ステージのスタートアップへのインパクト投資を実践します。

インパクト投資とは、従来の「リスク」(不確実性)・「リターン」(収益性)という二次元で価値判断する投資 & 「インパクト」(環境・社会的課題解決)という三次元の価値判断による投資です。解決する意図が重要であり、インパクトの測定・目標設定を投資プロセスの一環とします。取り残されがちな外部不経済を取り込む、包摂性あるインクルーシブな資本主義の実践とも言えるでしょう。

アフリカは課題が多い大陸であることは間違いがなく、机上の論理だけではなかなか通じない現実があります。だからこそ、日本は官民連携で国を上げて、アフリカ大陸のリアルな、インパクトある経験値を持つ世代を育成すべきであります。特に日本がG7議長国を務めた本年に、SDGsの中間報告的な存在である国連サミットが開催される本年に、日本一同でアフリカを含むグローバルサウスを取り残さないことを宣言するだけでなく、実践を示すことが重要です。

(しぶさわ けん)